

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況①

団体名	高麗川ふるさとの会	実施日	平成 30 年 4 月～平成 30 年 12 月
代表者	三浦 輝夫	活動場所	坂戸市（高麗川）
タイトル	高麗川の良好な水辺環境の保全活動		
活動目的	高麗川の良好な水辺環境を将来の子孫に引き継いで行くために、市民が一体となって行政との協働の中で、高麗川の環境を良くする活動を推進していくことを目的とする。		
活動内容	<p>坂戸市浅羽地内にある浅羽ビオトープを主な活動場所として、草刈り、ゴミ拾い、野鳥・植生観察会、水路清掃、水質検査等様々な環境保全活動を行っている。浅羽ビオトープだけでなく鶴舞自治会との協力による樹林の清掃活動や荒川上流河川事務所との連携したクリーン作戦に参加するなど水辺環境保全の活動を行っている。</p> <p>今年度は、助成金を活用して主に以下の活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樋門上流・下流・浅羽野橋・万葉橋の 4 か所に、ゴミ受けネットを設置。降雨時に上流の水路から流れ込んでくるゴミ・水草がビオトープへ流入し水質悪化の原因となる元を防止する役割を果たす。また、万葉橋下流に設置したネットは、ビオトープに産卵に昇ってくる鯉・ライギョの遡上防止の役目もある。 ・刈り払い機を使ったビオトープの草刈り。 ・広報「こまがわニュース」を 3 回発行・発送。 		
	 <p>ゴミ受けネットを業者により設置。</p>	 <p>草刈り作業</p>	
	 <p>水路清掃</p>	 <p>広報発送作業</p>	
活動の成果	ネットの設置により、ゴミや水草等が水路に流入するのをしっかり防げた。鯉の侵入も完全に防ぐことができた。また、樋門下流部は増水時に一気にゴミが流れ込んでくる場所で、散策者の目に触れ目立つ場所なので、当会の活動のアピールにもなると考えている。		
今後の改善点	次は、すでにビオトープ内で繁殖しているライギョの駆除対策を検討中。また引き続き、浅羽ビオトープ内水路の浄化清掃には自治体との協働で取り組み、市内の環境イベントに参加し市役所での写真展を開催、また環境学館いずみの講座に協力するなど、幅広い年代の会員を確保し、活動の輪を広げ継続していける取り組みを行っていきたい。		
最終助成決定額	178,490 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況②

団体名	埼玉県立総合教育センター江南支所	実施日	平成 30 年 10 月
代表者	大嶋 紳一郎	活動場所	上尾市平方（入間川）
タイトル	高校生環境学習講座 ～アクティブ・ラーニングにより、治水、利水、環境を多面的に捉える～		
活動目的	埼玉県内の公立高校から参加者を募り、「荒川や入間川流域」の治水、利水、環境の 3 つの柱で体験学習等を行い、河川環境に対する興味・関心を醸成する。また、学習の中で、参加者同士が意見交換やディベートなどの主体的・対話的で深い学びを通し、「多自然川づくり」の改善にアイデアを出し合う場を設定した。そして、この講座を契機に、本事業終了後も主体的に河川環境整備に参画し、主体的に「多自然川づくり」に貢献する人材を育成することを目的とした。		
活動内容	<p>当日欠席者が多くなり、少人数での運営となった。内容は外来植物の駆除として、セイタカアワダチソウやアレチウリ等の抜き取りなど『あらかわ市民環境サポーター事務局』『日本生態系協会』と連携を図り運営した。また、三ツ又沼ビオトープに自生する植物の観察と今後のボランティア活動の在り方について意見交換を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>特定外来生物アレチウリが生育していることを学ぶ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>セイタカアワダチソウの駆除作業を実施</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>竹の枯死に関する実験地の観察（東京大学）を実施</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>若い参加者を増やす方法について意見交換</p> </div> </div>		
活動の成果	三ツ又沼ビオトープの保全活動は、平成 27 年度から「あらかわ市民環境サポーター事務局」と連携し 4 年目となっている。参加する高校生が、河川学習を通じて環境保全に高い興味、関心を持っていることをアンケートや参加の様子で確認できた。		
今後の改善点	高校生環境学習講座後の受講した生徒が、身近な環境保全活動に参加していない現状も確認した。そのため、生徒の身近な場所で実施される環境保全活動団体と事前に連携を図り、本事業を環境保全活動への入口として運営し、『本事業の終了後も地域の保全活動に参加する』までつなげたい。また次年度は『埼玉県希少野生植物の種の保護に関する条例』に基づき、希少植物の培養実験など実施し、繁殖した植物を参加者が管理し、生息地に戻し科学的な視点も踏まえ保全活動を取り組みたい。		
最終助成決定額	127,418 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況③

団体名	特定非営利活動法人 荒川の自然を守る会	実施日	平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月
代表者	菅間 宏子	活動場所	上尾市、川越市、川島町（荒川）
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境管理作業		
活動目的	設立以来、他団体と協力し三ツ又沼地域の調査・自然保全活動を続けている。行政、学識者、市民団体が協力し「保全管理計画」を作成、保全イメージを共有しつつ、約 27 年の間地域の会員を中心にボランティア活動で保全管理に取り組んできた。		
活動内容	<p>外来種の駆除やアシ刈りを実施するとともに、ハチクの 120 年ぶりの開花 2 年目を迎え、それに伴う管理作業や調査を実施した。また自然観察会の実施や広報活動等を実施し、多くの人に保全の必要性を知ってもらうために観察のための道具を充実した。自然を守ると同時に育てる活動として地域の在来野草の種子からの育苗と移植活動に力を入れた。外来種を楽しく駆除するため、参加者の安全確保に取り組むと同時に保険を充実した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>野草育成地の管理作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>外来種の駆除作業を実施</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>教育ルネッサンスボランティア体験と埼玉テレビ取材</p> </div>		
活動の成果	保険のおかげで参加者の安全が確保できた。刈り払い作業用の保険は会としては高額であったが助成金をいただくことができ保険をかけることができ安心して作業をしてもらった。		
今後の改善点	残念ながら今年度は降雨が少なく育苗うまくいかなかった。来年は栽培場所の変更を考えたい。		
最終助成決定額	155,000 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況④

団体名	上尾の自然を守る教職員の会	実施日	平成 30 年 4 月～平成 31 年 1 月
代表者	安孫子 繁子	活動場所	上尾市西野、川島町、川越市（荒川）
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境を楽しむ会		
活動目的	設立以来、他団体と協力し三ツ又沼地域の調査・自然保全活動を続けている。その中で若親子が自然離れをしている現状に危惧を抱いてきた。楽しく自然に接する体験を親子ともに持ってもらいたいと思い自然塾三ツ又の活動をしてきた。自然を見るだけではなく活用していることも体験しながら楽しく学べるようなイベントを考えてきた。		
活動内容	<p>楽しく自然に接する体験を親子ともに楽しく学べるようなイベントを実施。 子どもが多い時は虫の観察を中心にゆったりと自然体験できるようにした。小学校低学年の子たちは虫にとっても興味を持ってくれる。講師には虫の扱いや注意点も含めて指導してもらった。 高校生対象の時は事前指導の時間を学校でとっていただいた。現地では環境教育視点とボランティア体験を中心にした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>「篠デッポウ」遊び—昔の経験者に遊び方を教えてもらう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>浦和高校環境教育観察会と竹林管理</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>たき火とさつま焼き、パン焼き</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>七草採り・七草粥</p> </div> </div>		
活動の成果	子ども向けの虫の観察では、虫の専門家による指導が好評であった。 自然塾に参加した親子が通常の管理作業にも参加してくれるようになりつつある。		
今後の改善点	（高校生を対象に）以前行っていたパン焼きは人数が増えたので中止をしていたが、要望が多いので、来年度は復活する方法を考えていきたい。		
最終助成決定額	120,000 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑤

団体名	特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク	実施日	平成 30 年 5 月～平成 30 年 12 月
代表者	鈴木 勝行	活動場所	川越市、狭山市、入間市、坂戸市、日高市、飯能市、鶴ヶ島市、毛呂山町、ときがわ町、嵐山町、東秩父村、川島町 (入間川、赤間川(入間川第2用水)、高麗川、葛川、都幾川、槻川、瀬戸川、唐沢川、谷川、一ト市川、雀川、田黒川、小畔川、南小畔川、北小畔川、霞川、東大谷川、西大谷川、飯盛川)
タイトル	入間川水系一斉水質調査 Map 作成		
活動目的	荒川水系に清流を蘇らせることを目標に、まずは多くの方々に身近な河川に関心を持ってもらうため、当会設立から水質調査を行ってきた水質調査の結果をマップ化して、荒川流域の環境団体、行政各機関、学校等に広く配布し、河川環境改善の啓発を行う。		
活動内容	<p>本年度は特にアユの遡上調査を実施している入間川水系の調査に重点をおいた。河川環境の実態を把握し水質や構造物改善に向けて手立てを検討していく。</p> <p>平成 28 年度に作成したソフトを活用しマップを作成し、一斉水質調査参加団体及び関連団体に早期にマップを配布するとともに、本年度も、インターネット上（ホームページ、Facebook）で公開した。</p> <p>23 年間の水質調査データの電子ファイル化を行った（DVD）。</p> <p>地図に表示された調査地点毎に、2010 年～2018 年の水質調査結果のグラフを表示するアプリ (Ar-WQ) を開発した。</p>		
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>「鶴ヶ島の自然を守る会」による水質測定</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「熊谷の環境を考える連絡協議会」による水質調査</p> </div> </div>		
活動の成果	<p>参加団体は、地域の河川の経年変化を把握し活動につなげている。水質調査結果をインターネット上で公開したので、関係者は早い時期に、結果を把握することができた。</p> <p>「時系列グラフ付き水質調査マップ」の公開により、流域住民及び参加団体に貢献できた。開発したアプリは PC でもスマホでも利用でき、https://app.arakawa-ryuiki.net/wq/にアクセスすることで利用できる。</p>		
今後の改善点	高齢化により採取が不可能となった地点を別団体に依頼して調査を行う工夫をしたが、メンバーが採水地点に分散するので各団体は調査地点での撮影に苦労していると思われる。		
最終助成決定額	160,200 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑥

団体名	川島町網打連合会	実施日	平成 30 年 7 月
代表者	加藤 晃	活動場所	川越市、川島町（越辺川）
タイトル	投網打ち・舟乗り体験会		
活動目的	より多くの方に投網文化に親しんでもらうため、毎年 5 月に川島町内で行われている「ちびっこフェスティバル」会場での船乗り体験に続き、7 月に越辺川で「船乗り体験会」を実施。8 月と 9 月には河川の浅瀬から投網を打つ経験ができる「投網・地引網体験会」を企画し、段階的に投網の技術を上達させていける場を提供することにより特に若い世代の人々の投網と魚への関心・意欲を喚起することを目指した。		
活動内容	<p>7 月に越辺川で「船乗り体験会」を実施。 船乗り体験会を充実させるため新しい和船を 1 艘自作した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>受付の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>和船作成中の様子</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>船乗り体験の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>舟釘 2 種類</p> </div> </div>		
活動の成果	5 月に川島町で行なわれた「ちびっこフェスティバル」会場内の船乗り体験コーナーで体験会と当会ホームページの宣伝を行い、より多くの方たちに知ってもらえるよう努めた。7 月の「船乗り体験会」は町の広報に情報を掲載した結果、多くの参加者に船乗りの体験をしていただくことができ、河川や船に関する理解をより深めてもらう機会となった。		
今後の改善点	8 月と 9 月に予定していた「投網・地引網体験会」は 2 年連続で中止となったため、今年は予備日をそれぞれに設けて実施の可能性を高めて臨んだが、結果は河川の水位上昇により 4 日間とも全て中止とせざるを得なかった。今後、この時期の投網・地引網体験会は助成対象から外す方向で検討している。（漁の解禁期間の関係で、他の時期に実施するのは難しい）		
最終助成決定額	153,848 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑦

団体名	SUN JOY 南小畔川	実施日	平成 30 年 4 月～平成 30 年 12 月
代表者	安原 昭司	活動場所	川越市笠幡（南小畔川）
タイトル	アレチウリ駆除活動と美化/減災活動		
活動目的	特定外来種アレチウリ駆除活動と河川の清掃活動並び水害防災活動（河川内の雑木処理）で河川氾濫を減少させる。		
活動内容	<p>日本本来の植物をアレチウリが繁茂して減少させるのを防ぐため、また地域の方が河川岸を散歩する際に少しでも気持ちよくしたいため、アレチウリの駆除を行った。住民の方々にアレチウリに関心を持ってもらうため、アレチウリ染を実験した。</p> <p>笠幡地区は昔、蚕産業が盛んだった為に桑の木が河川内に繁茂し台風シーズンに流れを妨げ氾濫の原因をつくるので、雑木の伐採作業で流れをスムーズにした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>特定外来種アレチウリ駆除作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>河川内の雑木処理水害減災活動</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>アレチウリ駆除作業の収穫</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ゴミ拾い結果</p> </div> </div>		
活動の成果	<p>小畔川、田中橋～神明橋間約 800mの右岸側で、40L 袋約 60～80 袋のアレチウリを駆除できた。駆除作業後は、川岸を散歩する住民の皆さんに喜ばれた。</p> <p>さらに雑木処理により、流れてくるゴミを拾いやすくなった。特に今問題のプラスチック類（レジ袋）が雑木（桑の木、野ばら）に絡みバラバラになり海に流れるのを阻止できた。</p>		
今後の改善点	<p>5, 6 月はアレチウリも少なかったのが安心していたがその後の異常な暑さの為、繁茂したが、我々の活動ができなかった。アレチウリ駆除作業時期（特に 8 月）の異常気象には大きめの麦わら帽子を被る等対策が必要。</p> <p>雑木（桑の木、野ばら）の根は深く毎年出てくるため対策を検討する必要。</p> <p>若手の活動者を探していく為、イベントを企画中。</p> <p>犬の散歩で糞始末マナー違反を見かけるので「SUN JOY わんわんクラブ」企画。</p>		
最終助成決定額	80,346 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑧

団体名	狭山市立入間川小学校	実施日	平成 30 年 5 月～平成 31 年 2 月
代表者	新井 忠洋	活動場所	狭山市（入間川）
タイトル	ゆりの木学習（入間川探検隊）		
活動目的	本校は、「地域・保護者に信頼され、児童の成長が見える学校」を目指し、開かれた学校運営を推進している。その一環として「総合学習」を中心に、隣接する入間川で観察や体験学習を行い、地元の川へ愛着を育てている。具体的には川に生息する動植物の観察、川の清掃活動や環境調査、地引網やカヌー体験などを今年も充実発展させ実施した。		
活動内容	<p><u>1. 入間川の自然観察</u> 理科や総合の学習では各学年の学習内容に合わせ、入間川河川敷に出かけ、草花の様子、川に生息する生きもの観察や季節探しを行った。</p> <p><u>2. カヌー体験</u> 5年生の「ゆりの木学習」では、狭山市環境ネットワーク等の協力を得て、普段できないカヌーを体験し、一生の思い出となる体験ができた。</p> <p><u>3. 投網体験</u> 5年生はさらに、漁業組合の協力を得て「投網体験」をした。天候の関係で「地引網」はできなかったが、その歴史や方法の説明も受けた。</p> <p><u>4. 入間川の水質検査等</u> 5年生の総合学習や環境委員会では、入間川の水質検査や地域清掃を行っている。各学年とも観察の帰りには、ゴミを拾って帰っている。</p> <p><u>5. 学習発表会</u> 年度末には各学年とも、1年間の学習内容を保護者や地域の方々を招待して発表している。入間川や地域環境に関する発表がある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>入間川の自然観察</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>学習発表会</p> </div> </div>		
活動の成果	どの活動も子供たちにとって大変貴重で魅力的な学習である。		
今後の改善点	今年は天候等の関係で「地引網体験」ができなかった。数回の延期日程もかなわず残念である。教育課程上特に時間数的に厳しいが、指導計画に位置付けた範囲で実施していきたい。しかし、予算的に厳しいものがあるので本事業に援助継続をお願いするとともに機関に援助を依頼していく。		
最終助成決定額	200,000 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑨

団体名	特定非営利活動法人 けやの森自然塾	実施日	平成 30 年 6 月～平成 30 年 8 月
代表者	佐藤 朝代	活動場所	狭山市、飯能市、川越市（入間川、唐沢川）
タイトル	水生昆虫探しとカヌー体験教室		
活動目的	<p>自然体験の経験が少なく、また友達とコミュニケーションをとることが苦手という子供が増えてきた。そんな子供達に、地元の入間川を舞台に、夏ならではの川遊びを通し、仲間と協力をして、自然に親しみ、生来持つ子供らしさ“生きいきとした子供の姿”を取り戻したい。そして経験を重ねることで、生きる力を育みたい。この体験を通して川の楽しさ、怖さを知り、自然を守る気持ちを養いたい。</p>		
活動内容	<p>昨年度同様、狭山市、入間市、飯能市を中心にチラシを配布し、参加者を募った。</p> <p>①水質調査：パックテストにて水質を調査する。支流と本流との水質の違いについて考える。</p> <p>②水生昆虫探し：生物の種類や生息環境を知ることで、環境の変化を知る。</p> <p>③カヌー体験：子供達が協力して準備や後片付けを行い、コミュニケーションを図るきっかけをつくる。</p> <p>④レスキュー体験：ライフジャケットでの川流れやレスキューロープを使っての救助体験を行う。</p>		
	 <p>入間川本流でのカヌー体験</p>	 <p>入間川本流での生き物探し</p>	
	 <p>入間川の支流の唐沢川にて水生昆虫探し</p>	 <p>室内での水質調査比較の様子</p>	
活動の成果	<p>昨年実施できなかった荒川流域ネットワークへの水質調査の協力にできた。普段実施している飯能の阿須だけではなく、川越市～飯能市の7地点で調査を行った。複数の地点でのCODの数値を比較することで、いままでよりも水質の変化がわかりやすくなった。河川財団が発行している「水辺の安全ハンドブック」を参加者へ配布して水辺の危険について、具体的に示すことができた。狭山市民のボランティアスタッフ（有カヌー資格者）の協力を得ることができた。</p>		
今後の改善点	<p>予定していた8月7日（火）は河川増水のため実施できなかった。講師、スタッフとの調整ができたため、当初予定していなかった8月22日（水）に延期して実施した。日程が変更になったため、参加者は半減してしまったが、子供達に自然の中で過ごす心地よさや水辺の危険、地域の河川への親しみを深めることができた。</p>		
最終助成決定額	140,960 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑩

団体名	NPO法人 かわごえ里山イニシアチブ	実施日	平成 30 年 4 月～平成 30 年 10 月
代表者	増田 純一	活動場所	川越市福田（入間川、小畔川、越辺川周辺）
タイトル	生きもの育む田んぼプロジェクト 2018		
活動目的	自然と調和し人と生きものにやさしい田んぼ活動を行い、誰もが安心・安全に暮らせる人と自然と生きものが共生できる環境豊かな里山づくりを目的に活動している。		
活動内容	<p>生きもの育む田んぼプロジェクトの参加者を募集し農家と非農家（消費者）が連携して種から苗づくりをし、田植えから稲刈り体験を通して、ネオニコチノイド系農薬や過度な化学肥料を河川に流さない農法を学習し、環境豊かな田んぼの価値を体験してもらい普及・啓発活動を行った。生きもの調査を通して環境調査・環境教育を行い、講演会や勉強会で環境にやさしい田んぼの重要性の普及を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>入間川から取水する用水路の清掃</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講演会</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>食べる生きもの調査</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>埼玉県知事から彩の国環境大賞の「大賞」を授与</p> </div> </div>		
活動の成果	<p>活動の活発化にともない新聞記事などのメディアの注目度が高まっている。今年度は環境栽培型のマコモが特に注目を集め都会からの農業体験者が集まりマコモのしめ縄飾りづくりなどが人気を博した。堀さらい、ストロベリーキャンドルピクニック、かかし祭りなど地域に根付いた活動によって、農薬や化学肥料を使わない環境にやさしい米作りが地域の理解が増えた。</p> <p>生きもの育む田んぼプロジェクトは、生物多様性向上や田んぼをフィールドにした田んぼの価値を地域と連携しながら十分伝えることが出来、これらの諸活動が評価され、平成 30 年度の彩の国埼玉環境大賞の「大賞」を受賞した。</p>		
今後の改善点	今後自立発展するための拠点づくりが今後の課題。拠点ができれば、地域を交えたコミュニティとしての役割や、6 次産業化を行う事が出来る場として、お米の加工品や他マコモ製品による経済的な自立発展が見込まれる。		
最終助成決定額	110,000 円		

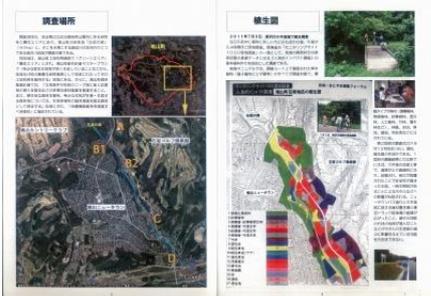
※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑪

団体名	埼玉県立いずみ高等学校	実施日	平成 30 年 5 月～平成 31 年 3 月
代表者	栗藤 義明	活動場所	川島町（三ツ又沼ビオトープ）
タイトル	三ツ又沼ビオトープ保全管理実習		
活動目的	現在、三ツ又沼ビオトープでは、外来草本植物の繁茂が問題となっている。そこで、三ツ又沼ビオトープをフィールドに授業の一環としてビオトープ管理実習を行い、アレチウリやセイタカアワダチソウなどの外来草本植物の駆除や繁茂しすぎた竹林やクワの管理など、ビオトープの環境を適切に保全するための実習を行った。		
活動内容	<p>いずみ高校・生物サイエンス科の 2 年生で行う「生態学基礎」の授業において、「荒川上流河川事務所」、「日本生態系協会」や「地域サポーター」と協力し、三ツ又沼ビオトープに侵入した外来種の駆除を中心とした自然環境保全活動を実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>三ツ又沼でビオトープ管理の振り返りの説明を受ける生徒達</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>外来の草本植物（セイタカアワダチソウ）の駆除作業の様子</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>ヨシの草原に火入れた場所について説明を受けている様子</p> </div>		
活動の成果	日本生態協会や荒川市民環境サポーターのボランティアの方々の協力を得ることにより、より実践的なビオトープ管理実習が体験でき、実習を通して環境保全活動の大変さや、日本の在来植生を守る活動の重要性が実感でき、実習を通して理解できるようになった。特に 1 回目と最後の総括発表会では、日本生態系協会やボランティアの方が来校し、講演や活動報告をしていただいた。現地での実習と講演会を組み合わせることで、生徒は意識的にビオトープ管理実習に取り組んでいた。また、今年度は生物サイエンス科 2 年生だけでなく、他学科の生徒も参加し、ビオトープの保全管理活動に取り組めた。		
今後の改善点	三ツ又沼の植生を回復するために必要な在来草本植物の種子採種や採取した種子の発芽試験にも取り組んでいる。これらの実験結果についてはビオトープを管理しているボランティアの方などと情報を共有し、今後は、さらに発芽率向上のための実験や保全管理などにつなげていく。		
最終助成決定額	160,000 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑫

団体名	はとやま環境フォーラム	実施日	平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月
代表者	愛場 謙嗣	活動場所	鳩山町（唐沢川、鳩川、越辺川）
タイトル	鳩山町における自然環境調査保全活動		
活動目的	鳩山町の北東部は県立丘陵自然公園区域にあるなど自然豊かな山村部にあるが、公園内に大規模集合住宅（鳩山ニュータウン）が造成され、町内に 4 つのゴルフ場ができるなど、相次ぐ開発により自然・生活環境が大きく変化してきている。そうした自然・生活環境の変化を多面的に継続監視（モニタリング）することを通して、多様な生態系の再生とより安全な暮らしの確保に向けての基礎データを蓄積する。また、様々な環境保全活動の体験学習・講演会などを通してそれらの意義への理解を深めてもらうのが活動の目的である。		
活動内容	<p>①留農薬分析 情報公開で得たゴルフ場での農薬散布計画書に基づき、今年度も昨年度と同様、採水直前に散布されたメタラキシル、ホセチル、シクロスルファミロンの 3 成分の残留分析をおこなった。</p> <p>②希少水生生物調査 絶滅危惧種のホトケドジョウの生息が今年度も確認された。</p> <p>③調査報告書の作成</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>唐沢川での春期調査</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>唐沢川流域水環境と生き物調査報告書</p> </div> </div>		
活動の成果	<p>①残留農薬分析 いずれも検出限界以下の「0.001mg/リットル未満」だった。しかし、ピリジン系除草剤成分ジチオピルは今回も微量（0.28ppb）ながら流出があり、2011 年以来 8 年間微量流出が続いていることがわかった。10 年間という長期間の農薬成分微量流出検査データを蓄積できたことの意義は大きい。</p>		
今後の改善点	<p>①留農薬分析 今後、蓄積データを基に、流域の水生生物への影響の有無と程度の調査研究が待たれる。</p> <p>②希少水生生物調査 今夏調査では、生息数の増加が認められたが、一過性のものなのか、今後の追跡調査が必要である。同じく絶滅危惧種のトウキョウサンショウウオについては生息数の減少傾向が見られるものの、増減の変化を特定するまでのデータが揃っていない。周辺の林の伐採が進んでいること、小川の水量が減少していること、アライグマによる食害等による影響が心配される。今後、調査の精度を高め、調査目的を絞り込むことで保全対策につなげられる調査になるよう改善していきたい。</p>		
最終助成決定額	100,247 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑬

団体名	川島町立つばさ南小学校	実施日	平成 30 年 7 月～平成 31 年 3 月
代表者	柳澤 睦夫	活動場所	川島町（荒川 ミツ又沼ビオトープ）
タイトル	総合的な学習の時間「守ろう 川島の緑と水」		
活動目的	5 年生は総合的な学習の時間に「守ろう 川島の緑と水」というテーマで学習しており、その授業の一環としてミツ又沼ビオトープでの活動に取り組んでいる。学区内の荒川の河川敷にあるミツ又沼ビオトープでは、季節ごとに変わる自然の同植物の観察をしたり、外来植物の伐採をしたりなどの活動を、環境サポーターさん、日本生態系協会の方々、荒川上流河川事務所の方々のご指導のもと行ってきた。ハンノキを増やし、豊かな自然の生態系を再生することを願う活動である		
活動内容	<p>荒川河川敷にあるミツ又沼ビオトープで自然観察を行ったり、ハンノキや在来植物の栽培や移植に挑戦したりしている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>サポーターさん達に植物の名前や虫の名前を教えてもらった。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>5 月に行った種の授与式でいただいた在来植物の種を学校で育て、12 月に現地に植え戻した。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>自分たちで調べたことを工夫してまとめ、発表会を行った。</p> </div>		
活動の成果	<p>ミツ又沼ビオトープ現地や、体育館、教室等で荒川河川事務所・日本生態系協会の方々・環境サポーターの皆さんの指導を受けたり、自分たちで興味関心のあることを調べたり、まとめたり、発表する活動を通して、児童は環境保護に関する知識や理解を深めることができた。種子から在来植物を学校で育て、現地に植え戻したり、外来植物などを抜いたりする体験を通して、環境を守っていくという意識付けにつながったと考えている。</p> <p>三学期には一年間の活動の中から興味関心のある動植物等について、児童一人一人が課題をもち、フィールドワークを通して教わったことや、本やインターネット等で調べたことをまとめ、発表会を行うことができた。</p>		
今後の改善点	<p>バスでの現地への移動で、授業時間にも限りがあり、現地での活動時間も十分とれない回もあった。在来植物を学校で種子から育てたが、植物の知識がなく、植えた植物と他の植物との区別が難しかった。</p>		
最終助成決定額	96,038 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 30 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑭

団体名	比企の川づくり協議会	実施日	平成 31 年 2 月
代表者	渡辺 仁	活動場所	嵐山町（都幾川）
タイトル	都幾川在来種復活シンポジウム「都幾川に生きる魚・両生・は虫類」		
活動目的	荒川流域の川が汚くなり、魚が減少したのは昭和 40 年代であった。しかし、魚の生息数は、川が比較的きれいとなり、都幾川流域で泳げるようになって、在来種は増えていないどころか減少している。今回のシンポジウムはその原因と対策を解明することを目的とした。また、魚だけではなく、流域に生きる両生類、は虫類の生息状況を把握し、どうしたら保全していけるかを目的とした。		
活動内容	<p>シンポジウムでは、都幾川で長年魚の生態を追っている齊藤裕也さん、両生類・は虫類に詳しい埼玉県川の博物館学芸員の藤田宏之さんのお二人をメイン講師に、入間川流域でアユの遡上調査を実施している NPO 法人荒川流域ネットワーク代表の鈴木勝行さん、ときがわ町の市民団体「もりんど」代表山本悦男さんから報告してもらった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>		
活動の成果	<p>メイン講師のお二人は、この都幾川流域は埼玉県内では、生態系が豊かな方であると語った。また在来種のウグイなどを食べてしまうコクチバスなどの外来種はどこにいるかを川の流域を常時探査し、外来種がいたら取ってしまう。さらに魚を襲うカワウなどへの対策は、淵などを活かすと共に、竹の葉っぱを浮かべることが現実的に有効などと討議された。</p>		
今後の改善点	<p>参加者はこの比企・東松山の地域で常時河川活動を行っている指導者クラスの方たちであり、今後は、流域の定常的パトロールと竹の葉を浮かべることを実験しようと協議した。</p>		
最終助成決定額	146,000 円		

※ 活動完了報告書を元に作成